

追 悼

今田 拓先生を悼む

横浜市総合リハビリテーションセンター 伊藤 利之

今田拓先生が2007年7月2日に逝去されました。享年80歳でした。先生のご永眠を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最近、リハビリテーション関係の集まりに先生のお姿を見ることがなくなり、気になっていた矢先の訃報で、心配が現実になり驚きと哀惜の念を禁じえません。

今田先生は永年日本リハビリテーション医学会理事として、学術的な業績のみならず、障害者や高齢者をとりまく種々の社会保障制度の改革にも積極的に取り組み、厚生労働省をはじめとする行政関係と学会とのパイプ役としてご尽力されました。今では定番になっている老人福祉法における「介助型車いす」や身体障害者の認定制度に関する提言など、数多くの優れた見識をお示しく下さいました。また1989年、仙台市で先生を会長として開催された第26回日本リハビリテーション医学会は、多くのリハビリテーション医にとって益するところの多い素晴らしい学会でした。日本リハビリテーション医学会各種委員会においても、先生の主催する委員会とはくに活発で、「日常生活動作」や「日常生活関連動作」の定義など、学会としての統一見解をおまとめになり、私たちに貴重な知見を残してくださいました。

個人的にも、先生からはリハビリテーション医学のみならず、人間 今田 拓としての教を沢山いただきました。筆者が横浜の障害者更生相談所長を拝命したとき、更生相談所長の大先輩として先生には直々にご指導いただきましたが、その際先生はマイクを片手に、「カラオケの一つもできない奴には更生相談所長は勤まらない！」と、私の音痴ぶりにあきれて、叱咤激励の喝を入れてくださいました。早いものであれから20年が過ぎ、おかげさまで今では何とか4、5曲は歌えるまでに成長しました。また、あるとき先生には、突然「いいところへ連れて行ってやる」と新宿にある俳句会館にお連れいただき、筆者の大恩師である故土屋弘吉先生を偲びながら、先生のご趣味の俳句の世界をご披露くださいました。

先生のご遺志を継ぐことに誇りと自負の念をもつものとして、先生がお力を注いでこられた日本のリハビリテーション医学を継承しその発展に寄与することはもちろんのこと、わが国の社会保障制度の充実に向け、微力ながら真摯に努力してまいりたいと思います。合掌。